

# 【算数科・小1・「単元名 3つのかずのけいさん」】①

## 【単元の目標】

3口の加法、減法及び加減混合の計算について、計算の意味や仕方を操作や図などをもとに理解し、場面を式に表して計算することができる。

## 【ICT活用のポイント】

画面上で操作しながら個別に考え、それを全体に提示し伝え合うことで、他者の考えを生かして理解や思考を広げ、深めることができる。

### 【つかむ】

同じ数ずつ分けたことをわかりやすく表せるとよいことに気付く

### 【追求する】

- ・ わかりやすく表すにはどんな表現方法があるか個別に考えたり全体で伝え合ったりする
- ・ 学びを生かして、個別に練習問題を解く

### 【まとめる】

本時の学習を振り返る

## 【事例の概要】（追求する過程 5 / 6 時間目）

- 8個を同じ数ずつ分けて表すために、まずブロックで実物を操作しながら考える。
- 8個を4個ずつ分けたことを、ブロックを使わないで表すにはどうしたらよいか意見を出し合う。
- 8個を2個ずつ分けたことを、わかりやすく表す方法を個別に考える。  
→【事例におけるICT活用の場面①】
- 個別に考えたことを画面共有し、全体で伝え合い考えを深める。  
わかったことを使い、個別に練習問題を解いてみる。  
→【事例におけるICT活用の場面②】
- 図や式で表すことのよさを振り返る。

# 【算数科・小1・「単元名 3つのかずのけいさん」②】

## 【事例におけるICT活用の場面①】



(活用したソフトや機能) 学習支援ソフト データ提出・受信、一覧表示

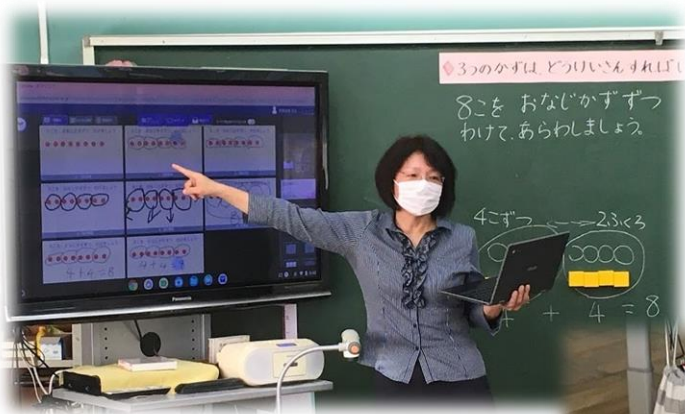
「自分たちが掘った8個のサツマイモを、同じ数ずつ袋に入れる」という日常生活に関連した課題から、児童が必要感を持って学習に臨んでいた。

8個のイモを○に置き換え、あらかじめ○が8個書いてあるシートを各自に配布しておくことで、考えたり書いたりする時間を確保できた。

→この○が固定されていることがポイント!! 児童が自分で書いた○や可動式の○と違って、消したり書いたりしても○がなくなり、見やすい。

ノートに書くよりも自分の考えを書いたり消したりしやすく、考えることに集中できた。→鉛筆で書いて消しゴムで消して・・・よりも、短時間できれいに修正でき、児童が自分の思いを表しやすい。1年生でも操作を覚え、使いこなせており、児童の満足そうな姿が印象的だった。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



児童の考えの過程を映し出せることで伝え合いにも深まりが見られた

学習したことを使ってみたよ

個別に考えたことを全体で共有し、お互いの考えを伝え合う場面では、それぞれの考えを大画面に映して見比べることができ、考えを深めるのに有効であった。→どうやってその考えにたどり着いたのか、説明する児童自身も聞いている人たちにもわかりやすい。うまく説明できない児童の考えを教師が補足するのも有効である。

練習問題も、個々のペースに合わせてできていた。

→じっくり考えて1問を解きたい児童、学習したことを用いて別の問題に取り組みたい児童、それぞれに合わせた学びができるところがICT活用のよさだと感じられた。